つるみの風

つるみの風　第51号
2023年 9月23日発行
鶴見聖契キリスト教会
〒230-0074　横浜市
鶴見区北寺尾1-16-7
TEL　045-572-0857

真実と向き合うなら

暑さ寒さも彼岸まで、と申しますが、本号がお手元に届くのは今年の秋分の日。さて、暑さは収まっているかと期待するも、今週の予報では連日三三度、三四度とのことで、経験したことのない暑さの応酬。猛暑日の地域もあるそうで、誰に怒りをぶつけたらいいか、わかりませんよね。そうは言っても、空は確実に高くなり、夕暮れ時に虫の声が聞こえ、スーパーには柿やイチジクが並び始めました。キンモクセイの香りが待ち遠しいこの頃、鶴見在住の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

最近の報道で、忖度（そんたく）とか、見て見ぬふりというワードを何度も聞きます。本当は悪いこととわかっているのに、自分がかえって不利になるからと目をつぶり、かかわることを避けて保身に走る、大なり小なり誰にでもこういう経験はあります。でも、これがマスメディアぐるみの隠ぺいだったり、数十年も続いて被害が拡大したらどうでしょうか。これだけ情報があふれ、真実とフェイクニュースの見分けがつきにくく、ある意味では無責任に言いたいことが言えてしまう（あるいは言わないままを決め込む）時代だからこそ、責任をもってしっかり真実と向き合うべきことを身に染みて思います。正義感や常識感覚がかえって身を滅ぼすよう な時代にだけはなってほしくないですよね。冒頭からお説教臭くてゴメンナサイ。

●ヨセフ売られてエジプトへ

真実と向き合うことで苦悩した人物を、聖書からご紹介しましょうか。その名はヨセフ。イエス・キリストの社会的父となったヨセフも許嫁のマリアが結婚前に妊娠した事実を知らされ苦悩しましたが、今日の主人公は旧約聖書に登場するヨセフです。彼の父はヤコブ、別名イスラエルで、かのアブラハムの孫。ヤコブには二人の妻と二人の女奴隷がいて、最愛の妻ラケルにだけは子がなく、ようやく生まれたヨセフを溺愛します。**「イスラエルは、息子たちのだれよりもヨセフを愛していた。ヨセフが年寄り子だったからである。それで彼はヨセフに、あや織りの長服を作ってやっていた」（旧約聖書　創世記三七・三）**。このあからさまな偏愛は当然のことながら十人の兄たちの妬みを買い、ヨセフを伏し拝む兄や両親の夢を見たヨセフがそれを無邪気に告げたことで、結果となり、ヨセフが一人で無防備に兄たちの居所へ出かけたことで彼は捕らえられ、エジプト行きのキャラバン隊に奴隷として売り飛ばされてしまうのです。兄たちは動物の血を例の長服に染みこませて死の偽装工作を施し、父ヤコブは欺かれて悲しみのどん底に。真実は闇の彼方へと葬られてしまいました。時は紀元前千九百年頃、ヨセフ一七歳でした。

●主がともにおられたので

あふれる父の寵愛を受けた環境から、事もあろうに兄弟たちの手によって、ことばも文化も全く異なるエジプトへ奴隷として連れて行かれたヨセフ。彼はエジプトの最高権力者ファラオの侍従長に買い取られます。自暴自棄になって当然の状況ですが、**「主がヨセフとともにおられたので」（三九・二）**、ヨセフはその忠実な働きで主人の信頼を得全財産を管理するまでに。しかし主人の妻から誘惑され、断固断ると逆恨みで濡れ衣を着せられ地下牢へ。何とも不条理な展開ですが、**「しかし、主はヨセフとともにおられ、彼に恵みを施し」（二一）**、今度は監獄の管理をすべて任せられます。エジプトに売られて一三年が経ち、ヨセフ三〇歳になったある日、不思議な導きで彼は地下牢からファラオの前に召喚され、ファラオの見た不吉な夢を解いて、エジプトに七年の豊作と七年の飢饉が来ることを予告し、備えるよう進言したことで、なんと外国人奴隷＆囚人の身から一気に、ファラオに次ぐエジプト第二の地位、宰相へと抜擢されたのでした。歴史を支配する神・主の壮大な計画は、さらに驚くべき展開を見せます。

●第三幕、ヨセフの苦悩

ヨセフの予告通り、エジプトには七年の豊作が訪れ、彼の命令によりエジプト中に量りきれないほど大量の穀物が備蓄されました。ですから、続く七年の飢饉が襲ってきても困窮することはなかったのです。困窮したのはエジプトの周辺諸国で、その中にあのヤコブ一族も含まれていました。そして、ヤコブの息子たちは穀物を買いに隣国エジプトを訪れ、穀物を管理する責任者ヨセフの前にひれ伏したのでした。ヨセフには兄たちがすぐにわかりましたが、兄たちにはわかりません。それはそうでしょう。エジプトの言語を話し、エジプト式の化粧や豪華な装いをした、当時最強の大国の総理大臣があのヨセフと、どうして想像出来るでしょうか。方やヨセフは、いつかこの時が来る、必ずかつて自分が見た夢が成就し、兄たちが自分を伏し拝む時が来ると予想していたのかもしれません。その時にどう応対したらいいのか、圧倒的な力関係の差を前に、自分をひどい目に遭わせた兄たちを赦せるのか、苦悩したに相違ないでしょう。今、それが目の前の現実となりました。それこそ走馬灯のようにヨセフの心は高速回転し、いのですが、むしろヨセフが揺れ動きつつ、真実と向き合う歩みを進めた過程と見たほうが適切でしょう。どんなことが起きたのか、詳しくはここに書きされませんから、聖書を手に入れ、創世記四二章～四四章をお読みいただけるなら幸いです。

●兄たちの二二年間の苦悩

ヨセフは兄たちを見知らぬ者、エジプトを探りに来た危険なスパイと断じ、監獄に入れて三日目、二番目の兄シメオンを人質にして、ヨセフの弟ベニヤミンを連れて来ることを条件に、穀物を持たせて他の兄たちを送り返しました。兄たちは話し合い

●神は私を先に遣わしたのだ

第四幕、ついに物語はヤマ場を迎えます。ヨセフの策略に翻弄された兄たちは行き詰まり、四番目の兄ユダが自分を身代わりにして末の弟ベニヤミン解放を懇願するに至り、ヨセフの自制は限界に達して、ついにヨセフは声を上げて泣き、兄たちに**「まったく、われわれは弟のことで罰を受けているのだ。あれが、あわれみを求めたとき、その心の苦しみを見ながら、聞き入れなかった。それで、われわれはこんな苦しみにあっているのだ」「私はあの子に罪を犯すなと言ったではないか。それなのに、おまえたちは聞き入れなかった。だから今、彼の血の報いを受けているのだ」（四二・二一、二二）**。ヨセフはそれを通訳なしに全部聞き、兄弟の間でも話題にすることなく、真実と向き合うことを避けて来たこと、今、誰も予想だにしなかった状況の中で、真実と向き合う歩みを始めたことを知ったからです。並行して、ヨセフも兄たちと向き合うプロセスに入ったのでした。この後のヨセフと兄たちの不可解なやりとりや探り合いは、ヨセフが兄たちの悔い改めを確かめるために彼らを試したと解説されることが多いのですが、むしろヨセフが揺れ動きつつ、真実と向き合う歩みを始めたことを知ったからです。並行して、ヨセフも兄たちと向き合うプロセスに入ったのでした。この後のヨセフと兄たちの不可解なやりとりや探り合いは、ヨセフが兄たちの悔い改めを確かめるために彼らを試したと解説されることが多いのですが、むしろヨセフが揺れ動きつつ、真実と向き合う歩みを進めた過程と見たほうが適切でしょう。どんなことが起きたのか、詳しくはここに書きされませんから、聖書を手に入れ、創世記四二章～四四章をお読みいただけるなら幸いです。

●神は私を先に遣わしたのだ

第四幕、ついに物語はヤマ場を迎えます。ヨセフの策略に翻弄された兄たちは行き詰まり、四番目の兄ユダが自分を身代わりにして末の弟ベニヤミン解放を懇願するに至り、ヨセフの自制は限界に達して、ついにヨセフは声を上げて泣き、兄たちに**「まったく、われわれは弟のことで罰を受けているのだ。あれが、あわれみを求めたとき、その心の苦しみを見ながら、聞き入れなかった。それで、われわれはこんな苦しみにあっているのだ」「私はヨセフです。父上はお元気ですか」（四五・三）**とヘブル語で語りかけました。これは兄たちにとって、水戸黄門の印籠どころではない驚きだったことでしょう。嬉しさよりも恐怖、生殺与奪を握られた真実と向き合う場面でした。次のヨセフのことばは、聖書名場面の名言集筆頭に挙げられるものです。**「私は、あなたがたがエジプトに売った弟のヨセフです。私をここに売ったことで、今、心を痛めたり自分を責めたりしないでください。神はあなたがたより先に私を遣わし、いのちを救うようにしてくださいましたのです」（四、五）**。ヨセフが向き合った真実とは、自分が父に偏愛されたこと、兄たちの悪行、エジプトでの苦悩と信じがたい展開、夢が成就して兄たちが自分にひれ伏したこと、これらすべての背後に、主なる神の支配と配慮、そして計画があったことでした。ヨセフの揺れ動きを見るにつけ、簡単にはヨセフが兄たちを赦せなかったこと、彼も真実に向き合うため時間とプロセスが必要だったと見て取れます。しかしようやく彼は神の御手の中にすべてが収められている真実を知ったのでした。この後、ヤコブ一族がエジプトに移住し、その地でイスラエル民族を形成、奴隷の四百年間を経て出エジプトし、カナンの地に帰還して国を立て上げる歴史を見れば、ヨセフがいかに重要なポジションに置かれていたか分かります。

（裏面に続く）